

平成27年度岡山県のハンセン病問題対策事業実施状況

全 体 統 括

●岡山県ハンセン病問題対策協議会

第1回 平成27年8月20日開催
 <議題>
 1 平成27年度事業実施状況
 2 その他

第2回 平成28年3月18日開催
 <議題>
 1 平成27年度事業実施状況
 2 平成28年度事業実施計画
 3 その他

個 別 課 題 へ の 対 応

1 偏見・差別解消のための啓発事業のきめ細やかな実施

(1)単なるパンフレットの配布等でなく、啓発資材を活用した語り部等による伝承、対話集会の実施等きめ細やかな事業実施を工夫すること

●ハンセン病問題に関する講演会の開催 入所者による語り部講演会

			実施校	10校	1,226人	
1	7月27日	倉敷翠松高等学校	看護科1~4学年	119人	担当:長島愛生園	
2	10月7日	岡山市立岡南小学校	5年生・保護者	76人	担当:長島愛生園	
3	10月14日	県立岡山大安寺中等教育学校	1年生・保護者	160人	担当:邑久光明園	
4	10月16日	美作市立大原中学校	2年生・保護者	80人	担当:長島愛生園	
5	10月28日	赤磐市立磐梨小学校	5・6年生・保護者	65人	担当:邑久光明園	
6	11月7日	倉敷市立玉島北中学校	1年生	196人	担当:邑久光明園	
7	11月12日	和気町立佐伯中学校	1年生	18人	担当:長島愛生園	
8	11月14日	吉備中央町立加賀中学校	2年生・保護者	168人	担当:邑久光明園	
9	11月17日	瀬戸内市立行幸小学校	6年生	56人	担当:長島愛生園	
10	2月3日	岡山市立京山中学校	1年生	288人	担当:長島愛生園	

参加した生徒の感想(主なもの)

- ・ハンセン病についてよく考えることができました。私達にできる事はハンセン病についての正しい知識を身につけ、他人にも正しい情報を教えてあげることだと思います。ハンセン病だけでなく私達一人一人が人権を大切に、守られる社会になるように私自身もできることを頑張りたいと思います。(高1)
- ・お話を聞きながら、ひどい差別に涙がでてきました。もう2度と差別をしてはいけない、私達がハンセン病について正しい知識を次の世代へ伝えていこうと思います。(中2)

●地域交流事業

県民が実施する地域交流事業への補助 18件実施(約1,100人)

実施件数18件、約1,100人(3月末現在)

(H26年度23件、約1,600人)

- 啓発DVDの活用
随時 図書館等での視聴・貸出、語り部講演会等事前学習用に貸出

- ・療養所訪問研修における事前学習、小中学校等への貸出14件
- ・パネル展期間中の講演会(6月21日)での上映

(2)ハンセン病に関する正しい情報提供を行うこと

- ホームページでの啓発 「みんなで描くひとつの道」 www.hansen-okayama.jp
通年 公開開始：H14.6.24

- ・アクセス数 31,030件(H27.4.1～H28.2.29)

- 学習用小冊子の配布 (H27年6月30日改訂版)
随時 学校・市町村等へ配布、長島愛生園歴史館・邑久光明園等での活用

- 問い合わせのあった、学校・公民館・市町村等へ配付
学習用小冊子 約7,500部 (3月末現在)
(H26年度 約8,800部)

- 6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」関連事業
ハンセン病問題に関する普及啓発及びパネル展開催に係る各種広報
県政広報資料配信

パネル展及びハンセン病療養所入所者による講演会の開催
期間：平成27年6月19日(金)～7月3日(金)
場所：県庁1階県民室
内容：パネル12枚や関連書籍等の展示

講演：平成27年6月21日(日) 13:30～15:30
講師：国立療養所邑久光明園 山本 英郎 氏
演題：「ハンセン病と人権」
対象：一般県民、県職員、報道関係者 40名

- 啓発パネル等の貸出
随時 希望に応じて貸出

- ・県立図書館 1階 ティーンズコーナーで展示(6/16～7/9)

○保健福祉部職員研修（保健福祉課）

保健・福祉行政に携わる職員が療養所を訪問して、その歴史と現状を学ぶとともに、入所者との交流を通じて人権意識を高めることにより、今後の行政施策に役立てる。

7月16日 長島愛生園 20名参加

8月10日 邑久光明園 14名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・今回の研修で、偏見や差別の実態を知ることができた。ハンセン病についての正しい知識が無い方へ、病気のことや誤解のない知識をしっかりと伝えていくことが必要であると感じた。
- ・らい予防法という悪法が、この平成の世まで続き、国から謝罪があったのがつい最近だということに愕然とした。福祉行政に携わる者として、何ができるか改めて自分に問いたい。

○人権啓発研修（人権施策推進課）

県職員が療養所を訪問し、その歴史と現状を学ぶとともに、人権についての正しい理解と認識を深め、人権行政の担い手としての資質の向上に役立てる。

7月22日 長島愛生園 40名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・ハンセン病について、正確な知識を得たことで、ハンセン病回復者の方や関係者に対して、いかに理不尽なことが行われていたのか分かった。
- ・直接見て聞くと胸にぐっと来るものがあった。周囲の人や家族にも伝えたい。
- ・ハンセン病については、今まで無知であった。無知であることが、差別・偏見を招くという言葉が響いた。この研修を通じて今後もハンセン病について理解を深めたいと思った。

○人権啓発研修(人権施策推進課)

主任級に昇任した職員を対象に、ハンセン病問題を研修科目に組み込んだ職員研修を実施した。

- ・修了者 87名
- ・期間 1日（7月15日、21日のいずれか1日参加）
- ・場所 岡山県自治研修所
- ・内容 ハンセン病関係講話「ハンセン病を通して人権について考える」
講師 邑久光明園名誉園長 畑野 研太郎 先生

○パンフレット等の設置、配布（人権施策推進課）

随時 公民館・図書館等の公共施設に設置した人権情報コーナー(185か所)での情報提供

○人権啓発パートナーシップ推進事業費補助金(人権施策推進課)

県民協働による人権尊重社会の実現を目指して、NPO 法人等が行う人権意識の高揚を図るための啓発事業に対し、その経費の一部を補助する。

- ・補助団体名：公益財団法人邑久光明園友愛会
- ・補助事業名：人権啓発展示会
- ・交付決定額：134,000円

(3) 道徳副読本問題が提起した偏見・差別の無意識な助長に配慮し、学校教育の中の人権教育において取り上げること

○交流研修会の実施等（教育庁）

国立療養所の園長による講義、居室訪問、入所者の方による講話等を通して、ハンセン病問題についての正しい理解を図る研修を実施した。

- ・小・中学校及び高等学校・特別支援学校人権教育担当者研修講座
 邑久光明園において、10/2、10/9に計44人で実施

○各種研修会における、「第2次岡山県人権教育推進プラン」等の配付・説明
（教育庁）

市町村教育長・人権教育担当者、各学校の校長・人権教育担当者、初任者等を対象にした研修会で、資料を配付し、説明を行った。

<配付資料・説明の内容>

- ・「第2次岡山県人権教育推進プラン」について
- ・「ハンセン病に関する県民意識調査」結果概要について
- ・「岡山県ハンセン病問題対策協議会提言」について
- ・ハンセン病学習の充実に向けて（県の事業、啓発HP、小冊子「ハンセン病問題のこと正しく知っていますか？」等の紹介、配付）
- ・普及啓発DVD「未来への絆～ハンセン病問題から学ぶ～」の利用促進について

○人権教育指導資料の活用の促進等（教育庁）

授業等で活用できる指導資料（「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」「ワークショップ（下）」等）や視聴覚教材等について各種研修会で紹介し、活用を促した。

<平成25年度整備作品>

- ・作品名:「あなたの偏見、わたしの差別～人権に気づく旅～」
- ・内容等:長島愛生園、邑久光明園を訪れ、入所者の方や資料館の解説員の方と対話し、ハンセン病問題の歴史と現状を学ぶ。(DVD30分)

(注) 「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」
「あなたの偏見、わたしの差別～人権に気づく旅～」は、人権教育課HPでも紹介している。

(4) 高齢者等への理解を深めるために社会教育活動として生涯学習(出前講座)にも取り組むなど人権意識の涵養をさらに推進すること

●DVD(改訂版)の販売
通年 制作委託会社に販売委託
「ハンセン病を正しく理解するために」3,000円
ハンセン病全般がわかる啓発DVD29分
語り部証言集12名:157分
「今、わたしたちができること」1,000円
小・中・高校生向けハンセン病啓発DVD14分

販売状況(3月末現在)

・ハンセン病を正しく理解するために 7枚
・今、わたしたちができること 3枚
計10枚
※愛生園歴史館、国立ハンセン病資料館での販売分は未計上

○人権教育・啓発指導者講座Ⅰの実施(人権施策推進課・人権教育課)

人権問題の早期解決に向けて人権問題相互の関連を図り、自らの課題として日常生活の中に生かせる人権感覚を身につけるための教育・啓発活動を推進できる指導者を養成するため、全6回の研修のうちの一つとして、邑久光明園において現地研修及び交流学习を行った。

実施日 : 平成27年10月14日(水)

受講者 : 22名

研修内容 : 講義 邑久光明園 副看護部長 田中 英美 先生
入所者の方の居室訪問、資料展示室見学、啓発DVD視聴

(5) 若い世代に対する啓発は、ハンセン病の正しい知識についてストレートに伝えていくこと

各啓発活動の中で配慮

(6) 主要公立図書館にハンセン病関連文献コーナーを設置すること

○県立図書館への設置(教育庁生涯学習課)

通年 ハンセン病関連文献コーナーを設置

県内市町村立図書館にも、ハンセン病関連の蔵書あり

○啓発パネル・関連図書の展示(教育庁生涯学習課)

6月16日(火)~7月9日(木) 県立図書館1階 ティーンズコーナー にて
「学ぼうハンセン病問題」展示

展示を見られた方の感想(主なもの)

- ・療養所がある県に住む住民として、この問題に関心を寄せることは大切だと思う。
- ・入所者の方々は本当に大変な思いをされたと思う。この問題をきっかけに他の人権問題の解決にもつながればいいと思う。

2 福祉増進施策の実施

(1) 入所者を訪問し、県に対する要望などの意向調査を行うこと

- 議会と保健福祉部による合同訪問

7月6日、6月22日の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせて、環境文化保健福祉委員長及び保健福祉部次長が長島愛生園及び邑久光明園を訪問

園長訪問、納骨堂への献花の後、自治会役員及び岡山県人会員と懇談。将来構想や療養所の看護・介護の状況などを伺ったほか、間近に迫った夏祭り・花火の話をした。

- 入所者激励費の贈呈（ハンセン病療養所入所者に対するもののみ）

12月4日に副知事が訪問し、贈呈
対象：長島愛生園及び邑久光明園の入所者全員

園長訪問、納骨堂への献花の後、自治会役員及び岡山県人会員と懇談。療養所内の高齢化状況などを伺ったほか、岡山駅付近等に行く買い物ツアーなどの話を伺った。

(2) 社会復帰支援員を設置し、社会復帰希望者からの相談に対応するとともに、当面、住宅、医療等の確保が求められている状況を受けて、継続的に入所者及び親族や関係市町村等との連絡調整等の支援を行うこと

- 社会復帰支援員による支援活動

平成23年度末をもって、活動終了

- 社会復帰推進事業

療養所全体としての社会復帰を推進するため、療養所を訪問して行う交流活動への補助

随時 5件

実施件数5件、約380人(3月末現在)
(H26年度 7件 約650人)

(3)住宅の確保について、関係市町村とも十分連携しながら公営住宅の優先入居や民間住宅の入居斡旋等の支援を行うこと

- 県営住宅の優先入居（住宅課）
随時 土木部住宅課において対応

実績なし

- 住宅費の一部補助
随時 生活保護基準により支給（例）岡山市37,000円／月
「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(4)医療の確保について、退所者に対する在宅医療の確保や療養所の協力医師、協力医療機関の確保、医療関係者の研修を目的として、療養所、入所者自治会と関係自治体、医療関係団体等との協議の場を設ける等の支援を行うこと

- 個別案件ごとに対応
随時 関係自治体、医師会との協議

社会復帰者については、健康推進課で随時対応要望等、特になし

社会復帰希望者の要望を踏まえ、関係自治体や医療機関等と連絡調整

- 医療費、介護保険利用料の補助
随時 自己負担上限（市民税非課税） ・ 医療費 35,400円／月
「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(5) 本人の希望に応じ、里帰り希望者には個別対応を行うこと

●岡山県出身者への訪問

7月 6日 長島愛生園、邑久光明園

7月23日 多摩全生園

7月24日 神山復生病院

訪問時に、見舞金と里帰り助成金を贈呈し、近況や県への要望、里帰りの予定など伺った。県人会の方の高齢化に伴い、年々、面談が難しくなっている。

入所者訪問時の状況

- ・長島愛生園 13名
 - ・邑久光明園 1名
 - ・多摩全生園 2名
 - ・神山復生病院 1名
- 夏祭りが近いこともあり、海から打ち上げられる花火の話などで盛り上がった。光明園については、担当者が住居訪問を行い、お一人にお会いすることができた。後遺症や持病などはあるが、お元気な様子であった。お二人とも昨年度里帰りできてよかったと話されていた。この施設に来て生まれて初めて愛情というものを感じたことや、過去の海外旅行の話や地元の方との交流が楽しいといった話を聞いた。

●意向を伺い、個別案件ごとに対応

里帰り、墓参りへの支援等について個別案件ごとに対応

3 両園保有史料の保全策に関する国への要望の実施

●史料の保全に関する要望

平成28年度重点要望

内容：将来構想の実現に向け、全力で取り組むこと。

ハンセン病療養所が保有する歴史的建造物や過去の貴重な文献等の資料を保全し、普及啓発に活用すること。

4 今後体制を整えた上で、さらに行う取組

(1) ハンセン病療養所入所者に対する聞き取り調査の実施

自治会及び園当局の協力を得て、聞き取り調査を実施し、了解が得られる方の聞き取り調査結果については、啓発資料として活用すること

●小冊子への体験談の掲載

通年 入所者の体験談を掲載した小冊子を、語り部講演会、学校等での人権学習に活用

掲載して活用中

H27配付部数 約 7,500部(3月末現在)

配付先(主なもの)

学校、公民館、市町村教育委員会など

(2) 関連資料・史料の収集・蓄積

広く県民に対して関連資料の提供を呼びかけるとともに、歴史研究者の協力を得て、岡山県及び市町村保存史料等の調査・研究を進め、偏見・差別解消に向けた取組みの一環として、これらの調査・研究を通じて明らかにされる事実を題材として、県民に対する啓発を行うこと

●資料集刊行、収集した史料の保存・公開

通年 平成20年度までに刊行した資料集制作の際等に収集した史料を、平成21年度末に県立記録資料館へ引き継ぎ済。

県立記録資料館において、史料を公開(H27年1月6日～)

なお、史料開示の相談があった場合は、個別案件ごとに対応している。

平成14年3月20日「岡山県のハンセン病対策を振り返り正しい理解を進める委員会」

から提出された意見書における提言

(注) ●健康推進課の実施事業